

全佛通信

十一月号
発行所
全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ木(本願寺内)
電話 二九六九
八六六六
〇三一一
振替 東京三三三〇
発行人 阿部重徳
編集者 伊東堅純
印刷所 ルンビニ社
一部 二〇円

仏教界と国政の諸問題

狩野 獲麟

宗教と政治はつねに最短距離にあるといわれながら、事実上は最遠距離におかれる。

さしあたり日本は世界中最大の仏教国であるからには、法律や政治、社会制度が仏教的になつてい

る筈なのに、事実は逆で、とくに最近の日本の現状は、きわめて非仏教的であるとさえいえる。

つまり、生産機構に人間が疎外され、非情化され相互依存の信頼とか、愛情とかが無くなり責任不感性となり、精神的には沙漠化して、孤独に陥入ってしまった。そこで、おくれればせに人間尊重とか、人間調和とか叫んでみても道義喪失と宗教不在の政治に気がつかなければ空念仏におわることになる。

宗教と政治はつねに最短距離にある。まして仏教国日本と自負する日本において、宗教界、とくに仏教界と政界が、いま少しく、この観点に立つて歩み寄り国のあり方を考えるようになるなら国民への救いは近づくであろうとおもう。全日本仏教界においては、従来とても此の構想のもとにいろいろな具体的問題に取り組んできたということは出来るけれども遅々と遅々として進まぬ半歩の原因は、政界と仏教界が互いに譲り合いまかせ合いのようなことで責任のなすり合いをして互いのふところへ飛びこんでこれを打ち出そうとする熱意がないからである。つまり心に思いながら日暮をくり返しているようなものである。これをして地球のテンポに間に合わせるには仏教界自身が立ち上ることでなければなるまい。それも誰かが云い出してくれそうだが、このことを叫び出そうではないか

と思うことである。思う人があれば必ず思う人との波調が合う、この波調が大きな波となつてもりあがつてくるに違いない。

また、現代に仏教を生かすことの捷徑は仏教の人生観と信念をひとりでも多くの国会議員に持つてもらふことである。またひとりでも仏教信念を持った国会議員を選出することである。また、仏教的議員があつたらこれを我々はあくまで信頼し、この人の活躍を助けてやることでなければならぬ。

北朝鮮の清津では終戦の混乱時に日本人婦女子ら一般人四千有余名が悲惨な死を遂げたが、清津に關係ある人々によって今年結成された、社団法人全国清津会では、これら非業な死を遂げた四千名の冥福を祈るため、全仏後援により来る十一月二十三日午前九時より東京九段の九段会館ホールにおいて、「清津殉難死没者全国合同大法要」を催すことになった。

主催団体の(社)全国清津会常務理事西本栢作氏は先般全仏を訪れ種々、具体的に本件について説明をなすと共に、全仏の協力を要請した。大導師は清津会の方々の希望もあり、善光寺名誉貫主で青蓮院門主東伏見慈洽猥下の快諾を得、式衆は全仏各部長主事ら

からである。国会や選挙のことを遠く岸辺を見るような風習がとかく仏教界に多いことそれ自身が仏教の衰微を招いているのである。

元総理の片山哲氏は、正しい選挙運動を実現するため画期的行動を興されて、我々の手によってこそ国の選挙を美化して行こうと、するぐらひの熱意を全国八万の寺院にもってもらうような時代を迎えたいものである。

全日本仏教会が国会対策委員会をもち、宗教法人関係から、墓地埋葬問題、農地報償問題、宗教保育行政問題、憲法問題、年中行事で行なわれることにはほぼ内定を見た。

当日は全国から清津において死亡した人々の遺家族、縁故者ら五百名以上が参加するが、秩父宮殿下ら皇族も参列されるもよう、盛会が大いに期待される。

祝祭日問題、国際政治問題等、山積する政治問題と取り組みながら半歩遅々の歩みをくり返していることは、結局仏教信念に燃ゆる一騎当千の国会議員を多数持つていないからの弱みから来るものとおもう。

仏教国日本の国民をして仏教の遺産を豊かにわちあたる道は政治の方向をこれに近づけるため総意を結果して国会に反映せしむることである。このことのために縁の下力もちをする菩薩行こそ現在あたえられた我々仏教徒の使命であろうとおもう。(筆者は元全仏組織局長、現組織専門委員長)

な。お今日は、浄土宗大本山増上寺法主権尾升匡師の法話がある。法要にひきつづいて、清津会では、北朝鮮の山野に散華し、今なお骨収集の実現を期すべく、北朝鮮人遺骨内地送還総けつ起大会をひらき大会を、氣勢をあげる

と云っている。なお、これとは別に、全仏では外務省等と交渉している仏教に関する在外資産の内地返還運動もひきつづき推進に鋭意努力すると云っている。

東伏見慈洽猥下が導師 清津殉難者追悼大法要

十一月二十三日 九段会館で執行

× × × ×

玄奘大師靈骨塔落慶法要参列

中国訪問日本仏教代表団決定

十一月十七日 台湾日月潭で挙行

かつて中国大陸より戦火を避けて、わが埼玉縣慈恩寺に奉安されていた玄奘三蔵法師の靈骨は、昭和三十年十一月二十六日中華民国仏教会の要請により、前智山派管長倉持秀峰殿下が団長となり、五代表が玄奘三蔵靈骨捧持団として全仏から派遣され、台北市日月潭で盛大に奉還式典が挙行されたが、その後現地では玄奘大師靈骨塔建設委員会(趙恒忍主任委員)を結成し、着々と建築をすすめていた。



このほど同建設委員会趙主任委員より全仏団員より全仏會が落成し、11月17日に祝典をひらくので日本仏教代表の来駕を仰ぎたい旨の招請状が到着した。全仏では早速入選を行ない、次の各師を「玄奘大師靈骨塔落慶法要参列、中国訪問日本仏教代表団」として派遣することに決定し、この旨中国側へ送達した。

- 顧問 岡野正道師 孝道教団統理、全仏理事
- 顧問 山本勝俊師 曹洞宗大本山總持寺副貫首
- 顧問 岩本勝俊師 曹洞宗大本山總持寺副貫首
- 顧問 岡野正道師 孝道教団統理、全仏理事
- 顧問 山本勝俊師 曹洞宗大本山總持寺副貫首
- 顧問 岩本勝俊師 曹洞宗大本山總持寺副貫首

団員

- 麻布照海師 全仏事務局長、西本願寺式務部長
- 室峯梅逸師 曹洞宗大本山總持寺監院
- 岡野貴美子氏 孝道教団副統理、全仏国際委員
- 須田宗興師 曹洞宗大本山總持寺講師
- 椎谷 健氏 孝道教団事務局長、全仏組織委員
- 岩本昭典師 全仏組織副委員長
- 竹村日出夫氏 孝道教団国際課長(通訳)
- 柳野聖師 全仏国際部長
- 事務長 柳野聖師 全仏国際部長
- 在東京の中日仏教総会長清渡法師も同行する。
- 一行の中で倉持団長、麻布、岡野夫妻、椎谷、竹村氏らは十一月十六日午後一時二十分羽田発のCAT機で出発し、阿部、柳野師は同十六日午前八時十分発の日航機で先行する。帰国は同月十九日午後九時二十分日航機の予定。
- なお台北の日月潭は風光明媚な地で、建設された玄奘大師靈骨塔寺は純中国唐代様式の金堂であり落慶式典の行われる十一月十七日には、同時に中国建国の父と仰がれる孫中山先生誕辰百年祭典と、中国仏教僧伽代表大会も合せて挙行されるもようで盛會が期待される。
- なお岩本副貫首ら一行四名は十一月四日先発する。

印度訪問団

予定通り出発

印度とパキスタンの紛争で派遣が憂慮されていた、全仏派遣の印度初転法輪寺記念式典参加が日本仏教代表団は、予定通り十一月六日午後一時三十分羽田発の印度航空機で出発することに決定した。

なお、一行は八名で団長以下の団構成については十月二十七日開催の渡航打合せ会で決定する予定

代表氏名は次のとおり。

- 一、林 岱雲師 臨濟宗方広寺 派正明寺住職(静岡県)
 - 二、佐藤傳麟師 曹洞宗福泉寺 住職(静岡県)
 - 三、清水公照師 華嚴宗東大寺 二月堂主任(奈良県)
 - 四、徳田明本師 律宗伝香寺住職(奈良県)
 - 五、小林喜久一氏 日本放送協会専門モニター(京都市)
 - 六、大橋俊定師 浄土宗来迎寺 住職(静岡県)
 - 七、佐保山真海師 華嚴宗東大寺 寺勤務(奈良県)
 - 八、三浦 称随師 浄土宗源空寺住職(群馬県)
- 一行は十一月二十七日午後二時四十五分羽田着のキャセイ航空機にて帰国する予定である。

訪韓は明春に延期

かねてより韓国派遣日本仏教代表団派遣について準備をすすめていた全仏国際局では、先般これについて協議の結果、(1)日韓批准の期間にあたり関係各方面から慎重に行動すべきであるの聲があること、(2)季節的に寒冷であること等を理由にして、一応来春に延期することを決定した。

ことに決め、在京城の大韓仏教曹溪宗総務院長金法竜師へ通知すると共に、申込者にもこのむね通報了解を得た。

なお、全仏では明四十一年五月には訪韓を実現したいと云っている。

第一回世界仏青大会準備理事会へ全日仏青代表五名が出発

明年二月南ベトナムのサイゴン市にて第一回世界仏教青年大会が開催されることになっているが、その準備理事会が、十月二十五日より二十八日に亘りサイゴン市の新装成った会議場で開催されることになり、全日仏教青年会(大谷光昭会長)では、左の五代表(西村輝成団長)を派遣することに決めた。

- 一、西村輝成師 全日仏青常務理事
 - 二、黒田竜雄師 全日仏青常務理事
 - 三、朝比奈秀行師 全日仏青常務理事
 - 四、石上智康師 全日仏青常務理事
 - 五、杉谷和男師 全日仏青国際委員
- これら五代表者は十月二十四日午後十二時三十分発のスイス航空機にて香港経由で元気に飛び立つて行った。空港には全日仏青関係者多数が見送った。
- 全仏ではこの機に、中山国際局長名によるメッセージを南ベトナム仏教会積心珠会長へ送ると共に土産として小仏旗三十振を同仏教会へ送るべく夫々代表団に託した
- 第一回国際仏教婦人ハワイ交換会 全日仏婦が六十名派遣

野田市仏教徒会議

例年盛大に行なわれている野田市仏教徒会議は、本年も十月二十四日正午より、野田市の興風会館において大会を開き、全一仏教運動展開の結果を誓い合った。

当日は全仏より阿部組織部長が出席し、主として先般長野で開催された第十三回全日本仏教徒会議のようを詳細に亘って報告し、ついで大毎ニュース社企画課長栗田見氏による、南ベトナムの仏教界のもよみについての講演をきいた。栗田氏は今春二ヶ月に亘り、南ベトナム各地の取材に派遣されていた。

なお終って大毎ニュース数本を上映し生々しい南ベトナムの現状を見、ついで午後四時よりパーティが開かれた。

長野大会を報告

例年盛大に行なわれている野田市仏教徒会議は、本年も十月二十四日正午より、野田市の興風会館において大会を開き、全一仏教運動展開の結果を誓い合った。

当日は全仏より阿部組織部長が出席し、主として先般長野で開催された第十三回全日本仏教徒会議のようを詳細に亘って報告し、ついで大毎ニュース社企画課長栗田見氏による、南ベトナムの仏教界のもよみについての講演をきいた。栗田氏は今春二ヶ月に亘り、南ベトナム各地の取材に派遣されていた。

なお終って大毎ニュース数本を上映し生々しい南ベトナムの現状を見、ついで午後四時よりパーティが開かれた。

宗教センターが 10万人の大集会

国民皆信仰運動を展開

国民皆信仰運動を展開している宗教センターでは九月二十六日の日曜日午後一時から、代々木の国立競技場に十万人を集めて、本年度第一回宗教情操高揚国民大会を開いた。

この動員力は、主に新宗連のさん下団体が中心となっているが、宗教界、経済界、政界が一体となり、国民生活に宗教信仰を浸透させ、健全な国家を建設し、世界平和を実現しようというものである。第一部では宗教界代表として全仏養輪英章理事長が

「現在宗教の相互理解、提携の機運は盛りあがりつつある今日の大会では十万人集会したが、この運動がさらに百万となり五千万の人々の運動になるよう望みます」と挨拶し万場の拍手をあげた。

全国農地同盟物故者追悼法要厳修

第二部では、調和音頭と音楽おどりの発表会とドリル行進が、母の会連合会一千人をはじめ、大学高校吹奏団、宗教団隊吹奏楽団の演奏があった。



全仏から養輪理事長、黒田組織局長、福井、古宇田主事をはじめ加盟各種団体代表者多数が参加した。

、東京芝の青松寺に於て壮厳に執行された。全仏ではさきに農地同盟との連繫を深めて之が運動に同調して来たところから、法案の成立に至るまでに再度、法人を除くとするうきぎに對して強力に陳情をつづけ、ようやく報償措置実現にこぎつけたことから、全国農地同盟に對する報謝と、内外への意志表示として特にこの法要を主宰した。

尚法要は曹洞宗の協力を得て、東京宗務所管内の各教区長の出仕を煩し、全仏の高階会長が導師となつて、参会者全員が修証義を同唱して厳肅裡に終了したが、全国農地同盟網島正興会長の謝辞がのべられ遺族、衆参両院の代議士各界の代表者等、三百余名の焼香があつた。尚神奈川県仏東京都仏連の代表参加を得たが、遠く長野県仏、岡山県仏の有志が法衣を野けて隨喜された姿は印象的であつた。

尚同日午後四時から東京ヒルトンホテルに於ける農地同盟主催の農地報償実現感謝の会には、全仏から阿部組織部長が出席した。

第十四回全国更生保護大会で全仏麻布総長ら天皇に賜詞

十月十四、十五日の両日第十四回全国更生保護大会が開催され、この折法務大臣表彰者八十六名中二十六名の各宗派僧職はその対象となり、又前年度、八十五名中三十名の数を数え、又全国保護司連盟会長表彰者百五十三名中三十六名又前年度二百三十二名中六十七名活潑な活動に入つておられる各僧職に對し深甚な敬意をあらうと共に法務大臣被表彰者の全仏事務所

総長麻布照海師ら二十六名は十五日午後一時四十分宮中に参向、天皇陛下より慰勞の言葉を賜わつたここに左の如く本年度表彰者名を列記して敬意と感謝の意を表すものである。

保護観察所別 所屬宗派 氏名 年齢
東京 黄葉宗 奥田 行朗 54
横浜 渡辺寿千代 82
浦和 真言宗智山派 岡野 成憲 68
千葉 真言宗智山派 派沢 照仙 74
水戸 高橋 了照 73
宇都宮 本願寺派 関上 哲英 60
前橋 真木 興朝 64
新潟 佐藤 義信 57
大阪 真宗大谷派 間野 敬重 64
神戸 坪内 円郷 75
谷川 浩淳 66
大津 閻界 美芳 69
福井 間宮 恢勇 59
富山 近江 恵正 76
富山 木部 功隆 79
広島 時宗 佐藤 暢善 73
岡山 日蓮宗 喜多村見孝 70
佐賀 本願寺派 岡 徳仁 75
鹿児島 本門法華宗 土屋 智順 70
宮崎 丸山 観純 69
仙台 三田村暹孝 70
福島 高野山真言宗 酒主 亮道 52
秋田 小田島徹童 62
高知 星沢 照道 56

(所屬宗派記済せざるは調査不明)

宗派 ニ ュ ー ス

▼真言宗智山派では十月二十七日午後一時から、都下高尾町の高尾山薬王院に於て、密敎流詠歌全国大会を挙行する。参加議員約二百名はその夜、薬王院本坊に一泊

翌朝本堂の護摩供養に参拝、御詠歌を奉詠して解散する。

智山東京布教懇話会の第三回会合が、来る十二月七日午後二時から、智山派宗務庁東京出張所に於て開かれ、「今後の布教のあり方」のテーマによつて研究される。因みにこの会は智山の東京在住の少壮布教師、特に布教研究生が中心となつて今年春以来結成されて居るものである。

▼天台宗では、さる十月十八、十九の両日大正大学に於て第八回天台教学大会が開催され、本年は特に天台宗のみならず、広く天台系統の各宗によびかけ、真盛宗、聖観音宗、和宗の学僧らも含め発表者実に三十四名を数え特に福井康順天台学会々長の講演「宗学と宗団」の発表には宗門振興のために熱弁をふるわれた。

新版紹介 農地報償の解説書

大成出版社では農地報償給付金の支給事務の円滑化をはかり適正給付を行なうためわかりやすい寺院向け必読の書をこの程発行した。

- 一、給付金を受ける資格のある人はどういふ人か
 - 二、給付金の額はいくら位になるか
 - 三、給付金の請求手続はどうすればよいか
 - 四、給付金の請求書はどこへ提出すればよいか
 - 五、認定はどのようにされるか等である。
- (申込先)
東京世田谷区羽根木1の7
大成出版社
一部 ¥二二〇円 千五〇円

北海道便り

北海道に一年暮して

武宮 礼一

北海道の寺院は、一九六四年の「北海道年鑑」...

最も客観的のものにされている、若林功著「北海道開拓秘録」...

「心」のふるさと」であらねばならぬ、我々は、ふるさとに根をおい...

問題はこの伝統的よさを、様々な精神的物質的近代化の傾向の中...

南米から元気に 高階会長ら帰国

さる九月二日羽田出発以来、約一ヶ月に亘り、南米、北米、ハワイ...

宮崎乗雄師逝去

浄土真宗本願寺派宗務総長宮崎乗雄師は十月六日午後四時五十分...

大河内秀夫氏

日本仏教鑽仰会理事として活躍していたが、高血圧のため十月七日...

人形劇団紹介 仏教青年による 劇団ピッコロ

仏教人形劇を通して幼児に宗教情操教育をうえつけている劇団ピッコロ座はこの程杉並公会堂...

申込所

東京都杉並区上萩2の1の3 (光明院) 劇団ピッコロ 電話(340)2004

昭和41年 全仏手帳 Buddhist Diary

- 刊行 (内容一部) △各宗派年間行事 △年忌早見表 △月間予定表 △週間予定 △各宗派所在地・電話番号 △各都道府県仏教会 △各仏教団体

申込先 東京都中央区築地 3の1 (本願寺内) 全日本仏教会総務局 定価 1部 180円 送料別(実費) 発行 本年11月下旬